

安心の介護保険は希望

改悪反対集会 参加者怒りの声



寸劇で介護保険改悪の怒りを示した訪問介護ヘルパー
国賠訴訟原告団の人たち=18日、衆院第1 議員会館

厚労省審議会 実態を見よ

国会内で18日行われた「史上最悪の介護保険改定を許さない！」集会には200人以上が駆け付け、オンラインでも配信されました。集会参加者らは、制度の改悪を許さない大きなうねりを作り上げようと決意を固めました。

千葉県袖ケ浦市で認知症家族の会の代表を務める高安修蔵さん(73)は「認知症になっても、家族が安心して暮らせるまじゅうの必要だ」と強調。一年金が3、4万円ほどしかない人もいる。介護保険が改悪されると、困窮する人たちが増えることが心配」と言います。厚生労働省

の審議会に対して、現場の実態を見た議論を求めました。

埼玉県川越市の女性(63)は「介護の仕事を含め、女性が家庭でしている労働の社会的評価が低い。命のケアをしている介護労働者に、正当な手当がなされるようにしてほしい」と訴えました。

訴える黄色いシャツを着て参加した埼玉県八潮市の小曾駿さん(32)は、東京民医連労働組合の支部で働いています。「経営者も制度の壁にぶつかって苦勞している」と知ることができた」といいます。

都内の介護福祉士の女性(70)は「訪問先の要介護1の人も、5分もたたずに同じ質問を繰り返す。また、自分の世界に入ってしまうのが日常で、介護の仕事は大変。さらに家族も、元気がころを知っているから老いを知るのがつらい」と話しました。

横浜市から参加した障害者の介護をする女性(71)は「若い人たちに、年をとっても安心して介護も受けられる仕組みがあれば生き生きする希望になる」と力を込めました。